

<平成30年度 地球温暖化対策実行計画の施策実施状況の公表について>

地球温暖化対策の推進に関する法律第20条の3第10項の規定に基づき、岩手沿岸南部広域環境組合の地球温暖化対策実行計画の施策実施状況を以下のとおり公表します。

令和元年8月1日

岩手沿岸南部広域環境組合
管理者 釜石市長 野田武則

1. 温室効果ガス排出量

年 度	温室効果ガス排出量	前年度比	目標年度比
平成28年度(基準年度)	19,359 t (CO2)	100.56%	105.26%
平成30年度	23,062 t (CO2)	113.17%	125.40%

目標年度(平成33年度)温室効果ガス排出量=18,391 t (CO2)

※平成28年度(基準年度)の5%削減を目標

平成30年度は、目標年度の温室効果ガス排出量を達成することが出来ませんでした。

2. エネルギー使用量の目標達成状況

種 別	平成28年度 (基準)	平成30年度	前年度比
コークス (t)	1,641	1,693	97.19%
A重油 (KL)	241	246	79.87%
昼間電力(千kwh)	169	162	94.19%
夜間電力(千kwh)	124	125	109.65%
軽油 (L)	3,476	3,307	97.61%

種 別	平成33年度 (目標)	平成30年度	目標年度比
コークス (t)	1,559	1,693	108.60%
A重油 (KL)	229	246	107.42%
昼間電力(千kwh)	161	162	100.62%
夜間電力(千kwh)	118	125	105.93%
軽油 (L)	3,302	3,307	100.15%

3. 温室効果ガス排出量について

平成30年度の温室効果ガス排出量が平成29年度と比較して増加しました。
震災により減少した通常生活ごみは、震災前の水準に戻り、減少しました。

年 度	通常生活ごみ	災害ガレキ	合 計
平成29年度	31,237 t	0 t	31,237 t
平成30年度	30,661 t	0 t	30,661 t

エネルギー使用量（バイオマス燃料使用の取り組み）

平成30年度は、平成29年度と同様に温室効果ガスの対策として、バイオマス燃料（木質チップ）を使用しました。

コークスの使用量及びA重油使用量が減少しましたが、平成33年度の目標を達成することが出来ませんでした。

4. 今後の対応

今後は、ごみ量も落ち着きを見せ、徐々に減少に転じるものと思われます。そのためCO₂発生量も抑制されるものと期待されますが、バイオマス燃料のより効果的な活用を図り、更なる燃料等の節約に努め、前年度の実績を下回るように努力してまいります。